ＴＳＵＭＵＧＩ通信　VOL.27

2022年６月17日

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

2030年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です

一般社団法人地域連携ネットワークみえ

三重県伊勢市御薗町長屋１９６３

㈱ｴﾎﾞﾘｭｰｼｮﾝ内（☎0596-63-5080　FAX0696-65-7006）

E-mail　info@3c-mie.net　　https://3c-mie.net/

清々しい空気とさわやかな風がそよぐ日々から一転し、曇天や雨に悩まされる時間が多くなってなってきました。
季節の必然であることもさることながら、この地球上で起こっている人間の愚かさを嘆く天の涙かもしれません。

さて、今回は当社団法人会員の「(公財)三重県スポーツ協会」から活動のご紹介をいただきます。
スポーツ協会の名称は知っていても、どんな活動をされているのかはご存じない方も多いのでなないでしょうか。
また、温泉施設やレストランなどの運営もされていて、これからの季節、心身とも保養できる意外と穴場です！

(公財)三重県スポーツ協会
村木輝行理事長

公益財団法人三重県スポーツ協会について

本協会は公益財団法人として広く公の利益に供するため、スポーツの推進を図るとともに、生涯スポーツが県民の皆様の豊かな生活づくりに寄与する社会の実現を目指しております。

新型コロナウイルスの感染拡大から2年以上が経過し、昨年は昭和50年のみえ国体以来、46年ぶりに本県で開催される第76回国民体育大会「三重とこわか国体」の開催が中止となり、出口の見えない閉塞感の中、感染症対策をほどこしながら、可能な限りスポーツ協会の事業を進めてまいりました。

今年度は、まだまだ予断を許しませんが、まずは目の前の課題に対し、ひとつひとつ取り組み、スポーツの力で三重県が元気になるよう、取り組みを進めてまいります。

●本協会の事業紹介

本協会は、本県のスポーツを振興し、県民体力の向上とスポーツ精神の養成を目的とし、関係機関と連携し、事業を実施しています。
また、三重県営スポーツ施設等の指定管理施設と本協会直営の「スポーツガーデン Mie Spo Inn」の健全な施設運営に取り組んでいます。
昨年度は、コロナ禍で開催事業に大きな影響を受けたため、事業計画を変更し、事業の取り組みを行っています。
以下に事業の紹介をいたします。

○スポーツ振興事業

コロナ禍の影響で、多くの事業が中止となりましたが、スケート・スキーでの国体への選手派遣を始めとして、競技力水準の向上、スポーツ団体の育成、スポーツ指導者の育成、青少年スポーツの健全育成を図るための事業を行っています。

- 国体派遣事業
- 選手育成強化事業(競技力・強化事業)
- 国体準備事業(競技役員養成事業)
- 青少年スポーツ育成事業
- その他 公益目的6事業

○施設利用促進事業

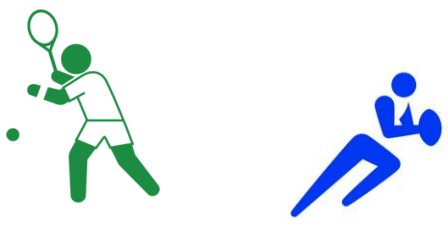
三重県から指定管理の指定を受けたスポーツ施設等の特性を活かし、スポーツと文化的プログラムを提供し、多くの方が集う場所として、そしてトップアスリートが最高のパフォーマンスを発揮できる施設環境を整備し、利用者を受け入れています。

また、本協会直営の宿泊施設について、隣接する三重交通G スポーツの杜 鈴鹿との連携において、大会や合宿利用者の利便性向上に努めておりますが、昨年度はコロナ禍の影響により、施設の利用が大きく減少したため、支出の抑制・支援金・助成金の活用等を行いながら、運営を行いました。

☆本協会管理運営施設

＜指定管施設理＞

- ・三重交通 G スポーツの杜 鈴鹿
- ・三重交通 G スポーツの杜 伊勢
- ・三重県立鈴鹿青少年センター
- ・ドリームオーシャンスタジアム



＜本協会所有/宿泊施設＞

・スポーツガーデン Mie Spo Inn

■スポーツガーデン Mie Spo Inn 、 ご関心のある方はどうぞお電話を！

～トピック～

第2回地域連携交流会を開催しました。

新型コロナ感染の収束が長引き、2年ぶりの開催となりました。

今、世界が荒れている中、サステナブルな社会づくりはどうなっていくんだろう！という思いではありますが、先ずは自分たちの暮らしの中で出来ることを取り組む。そうした意味で今回お集まりいただいた皆さんには、これからの活動に参考にしていただけたのではないかと感じています。

平日の午後という忙しい時間帯にもかかわらず多くの方にご参加いただきましたことに感謝です。

冒頭に、**四日市大学の岩崎恭典学長**に「産学官で地域づくりを！」というテーマでお話しをいただきました。

①時代の峠に立ってしまったという認識の共有（昭和の価値観を見直すこと）、②これまでの自治体と住民の関係の見直しを（受益分配・増分主義から負担分担・減分主義へ）

③町内会・自治体の限界と地域自治組織の必要性、④地域自治組織の役割。といった内容を分かりやすくご説明いただき、今後、企業や行政の役割の重要性を認識した時間でした。

（プリンテック／坂本氏）
津市内で印刷業を経営され、ライフワークとして障がい者のセーリングを支援する活動を紹介いただきました。

（グリーンスポーツアライアンス／澤田氏）
大手商社でドイツ駐在を経て、現在三重大学で微生物の研究をされる一方、持続可能な社会を目指し課題解決にスポーツを通じて貢献する団体の理事長としてのご活躍の紹介。

（三重ものづくり改善支援機構／長野氏）
県内企業の経営向上のため、改善支援を行いたいとして有志で立ち上げた機構のご紹介をいたださました。

当顧問の**内田先生**からは、交流会に寄せての概評をいただき、今回、執筆された「涙の声が聞こえる」（三重県民共済発行）のご紹介をいただきました。

（グローブマーケティング／岩本氏）
関係人口づくりを推進するためのサイクルツーリズムのツールとしてバーチャルスポーツアプリ ROUVY（ルービー）を紹介いただきました。
これは三重の美しいサイクリングコース等の映像を制作し、素晴らしいロケーションを体験してもらうものです。ロビーでのデモには多くの方の注目を得ていました。

次回の開催を楽しみにしています！